

# 第21回 創価大学 フランス語弁論大会で

田村怜奈  
(経済学部2年)



## 準優勝を受賞して

とにかくいつでも何かに挑戦したい、何事も楽しまなければとの思いで昨年、創価大学創立者杯フランス語弁論大会暗誦部門に出場し、審査員特別賞を頂いた私は今年、その弁論部門に挑戦し、ありがたいことに準優勝させていただいた。しかし、私がここで述べたいのは受賞の喜びなんて目じゃないほどに私の中に満ちた喜びについてだ。

また様々な人々と出会うことができる、という期待が何よりも私にこの大会（過酷な弁論部門）への出場を決めさせた。昨年、体調をガタガタに崩しながらも辛うじて参加できた、『星の王子さま』の一節を覚え、自分なりに表現するだけの暗誦部門とは違い、弁論部門の場合はテーマである“二十一世紀の女性”について自分の主張の概要を日本語で考え、フランス語に訳し、覚え、そして審査員からの（もちろん）フランス語での質問に（当然ながら）フランス語で答えなければならない。「去年のように風邪をひかないように気をつけて！」が大会前には口癖となった渡邊先生やフランス人留学生のエリアサン君に今年も協力していただき、なんとか大会に臨み、おまけに準優勝という名誉にあずかることができた。素晴らしいフランス語の先生たちがいることを感謝せずにはいられない。優勝したのはNGOで翻訳家として働いている方だったが、彼女の完璧なスピーチやフランス語での質問に対する答えには頭が下がる一方で、自分の修行の足りなさを存分に教えてくれた。フランス語を話せるようになりたい！との気持ちがますます強くなるばかりだ。

会場入りした私に多くの方が声をかけてく

れた。去年出会った人々と再会し、興奮して練習もそっちのけでおしゃべりをした。「今年も期待しているよ！」「先輩から去年の話聞いて今年の弁論を楽しみにしています」。プレッシャーをかけてくれた学生たちだけではなく、他校のフランス人の先生も弁論後に「去年はLe Petit Prince（『星の王子さま』）でしたね。今年も素晴らしかった。Mes félicitations！（おめでとう）」とお祝いのお言葉をくださった。審査員のフランス人女性は自らの意見を熱く語ってくれた。スピーチをつくりあげる過程（数回のパニック含む）も楽しかったが、何よりもこのような出会いが素敵だと私はつくづく感じるのだ。先日もこの大会で去年知り合った人や今年の出場者と会ったばかりだ。

人間が好きな私が最後に感謝の気持ちと共にここに書きたい素敵な出会いは渡邊先生や留学生たちとのものだ。一人の学生のことに一喜一憂してくださる先生に出会えたことを本当にありがたいと思う。フランス人の留学生エリアサン君とはフランスと日本における女性の社会的な地位、結婚や出産後の生活や仕事について語り合った。フランスでは日本と違い、女性が男性と同じように家庭と仕事の両方を手に入れることができる環境があることを再認識した。私が練習をしたいと言うと、授業のない日でも学校へ来て厳しくチェックしてくれた。中央大学で彼らに出会うことができた自分は本当に幸せ者だと身にしみて思う。これからも人との素敵な出会いを求めて何事にもチャレンジしていきたい。

*Cher Monsieur Watanabe, et Cher Eliaçounet, Merci infiniment pour votre aide efficace et précieuse. Patience... un jour je pourrai vous parler en français !*

# 田村さん、 準優勝おめでとう！

渡邊浩司(経済学部助教授)

『あなたにもできるフランス語通訳ガイド』(白水社)などの著書で知られる滑川明彦先生に初めてお会いしたのは、私がまだ名古屋のある私大で働いていた頃のことです。1996年秋に名古屋大学で開催された日本フランス語フランス文学会秋季大会の時でした。その後1998年に中央大学経済学部に移った私のもとに、日野市平山に住んでおられる滑川先生から久しぶりにお電話をいただいた折、先生が審査委員長を務める創価大学創立者杯フランス語弁論大会に、是非とも中央大学の学生を出場させてほしいとの依頼を受けました。そこで1999年の第18回大会から、本学経済学部の優秀な学生にも参加していただいています。

昨年、私が担任を受け持った1年34組に所属していた田村さんは、高校時代にフランス語を履修していたこともあり、私が担当した2年次の講読クラスで受講してもらったほどフランス語が堪能で、2001年度の創価大学フランス語弁論大会では、第20回大会開催を記念して新たに設けられた暗誦部門に挑戦し、見事審査員特別賞を獲得しました。「21世紀の女性・平和を求めて」をテーマとする今回の第21回大会では、田村さんは難関の弁論部門に挑戦し、見事準優勝を勝ち得ました。第18回大会の弁論部門で準優勝に輝いた笹川みささんはフランス語歴が長く、さらに中央大学の派遣留学生として約1年間のパ

リ留学を終えたばかりでしたので、その受賞は予想でしたが、留学経験のない2年生の田村さんの受賞はまさに努力の賜物であり、特筆に値します。

今回の弁論部門には6名の参加者がおりましたが、用意した仏文原稿を読み上げるだけの弁士が多い中で田村さんは原稿を見事に暗誦し、時にジェスチャーも交えながら、メリハリのきいた素晴らしいパフォーマンスで聴衆を魅了しました。田村さんの弁論終了後、弁論のリハーサルを献身的に応援してくれた中央大学交換留学生のエリアサン・デック君も、私の妻も、私も、田村さんの受賞をすぐに確信しました。田村さんは「教育に女性の力を！」という演題のもと、持ち時間6分の中で、自分の小学生時代の体験を交えながら、教育の分野で女性が女性であることの特権を生かすことのできる可能性を説きました。21世紀に入ってもなお、世界各地で戦争が勃発し、誤解と流血が絶えない中、ますます重要性が高まっている子供たちの教育の分野で、母親のように安心感を与えてくれる女性教員の活躍が期待されるという趣旨だったと思います。2002年度からはゼミ生として田村さんを指導していますが、何事にも好奇心旺盛で、語学のみならずどの科目にも全力で取り組んでいる田村さんには、教員の私も多くの勇気をもたらしています。